令和４年度　　能美市立根上中学校　学校評価（中間）

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評価	学校関係者評価者による意見
1	組織的な学校運営（教師力を磨き、学校力を高める）	①気づきを大切にし、的確な「報告・連絡・相談」をする。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応する。	【教職員アンケート】 ・気づきを大切にし、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	【教100%】 学校経営ビジョンの実現化を目指し、主任層のミドルアップ、ミドルダウンが充実し、各分掌が機能している。また、運営委員会等を活用し、分掌・学年会間の横の連携もとれている。今後も、各自の気づきと発信を大切にし、共通理解を図り、学校運営への参画意識を持って一本化した取組や対応が行えるようにする。	A	コドモンの導入により、朝の欠席連絡を電話で受けたり、検温チェックをしたりする手間を省くことができ、業務改善につながる可能性が高い。コドモンについては、そのメリットを最大限生かすことができるよう、運用にあたってのルールづくりを行い、効果的に活用していくことができるとよい。連絡ツールとしても活用し、学校ホームページとリンクさせることで、「5②適切な情報公開」のスコア向上にもつなげることができる。 デジタルのよさは最大限活用していくべきだが、アナログのよさも再認識しながら、バランスよく業務に活用していってほしい。
		②働き方の見直しを進める。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 月2回以上の定時退校を設定したり、業務の平準化を行ったりすることで、時間外勤務時間を短縮する。	【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100%　B 90%以上 C 80%以上　D 70%以上	【4-7月：91.3%】【9-12月：〇%】 業務改善の目的・意義を職員で確認した。時間外勤時間が月平均80時間を超える教員には校長が面談をし、要因や改善策を検討している。市からの校務支援員を活用し、業務内容を吟味の上、割り振りしている。学校行事により、繁忙期があるため、見通しをもって計画的に進めていくことを一人一人が意識していく。	B	
		③重点課題の解決のために「親和的な集団」をつくる。	生徒指導（泉）	【努力指標】 生徒と向き合う時間を確保し、「親和的な集団」づくりを目指す。	【教職員アンケート】 ・生徒と向き合う時間を確保し、「親和的な集団」をつくることを大切にしている。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	【教96.5%】 学級・学年・部活動それぞれの集団の中で規律やルールを徹底し、認め合う、助け合う、励まし合う、そしてひいては一人一人が安心して過ごすことができる学級や学年、学校をつくることを職員全体で共通理解を図り、目指してきた。ICT機器の有効な活用等で、業務のスリム化が推進され、「生徒と向き合う物理的な時間の確保」が実現しているのだと思われる。とはいえ、いまだ「どちらかといえばそう思う」の回答率が51.7%となっているので、業務のスリム化をさらに進め、生徒と向き合う時間を確保できるようにしていきたい。	A	
2	知（自ら進んで学ぶ生徒）	①わかる・できる授業を展開する。	研究（山上）	【満足度指標】 学力向上のための方策として、授業改善や授業規律の確立、9年間を見通した学習指導の徹底を行い、「根っ中授業スタイル」の充実を図る。	【授業アンケート】（研究部） ・授業はわかりやすい。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【教職員アンケート】 ・わかる・できる授業となるよう、授業改善に取り組んでいる。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生92.2%、教96.5%】 4月当初に今年度の授業の進め方と意識していくことを全教職員と全校生徒で共有する機会を設けたことがとても効果的であったことがうかがえる。各学年共にA評価がそれぞれ6割を占めており、A、B合わせると9割以上の生徒がわかりやすさを感じている。今後の課題としては、A評価の割合が8割を超えることを目標に、教職員が教科部会や校内研修会を通して授業改善を行っていきたいと考えている。	A	navimaなどのAIドリルを効果的に活用し、学力の定着につなげていってほしい。生徒の学習状況をweb上で確認できるため、課題チェック等の時間を削減し、生徒の学習支援に時間を費やすことができるというよさもある。ICT活用について、生徒の満足度よりも教員の満足度が低い結果となっている。今後、ICTは欠かすことのできないツールとなるが、あくまでも目標達成のための手段であることを再認識することも必要である。特に、社会に出ると「書く力」が試されることが多い。自分の考えをじっくり丁寧に練り上げて文章化するスキルは、アナログのほうが効果的である場合が多い。アナログとデジタルの両方のよさを取り入れ、各先生方のオリジナリティーも大切にした授業実践を進めていってほしい。すべてがデジタルで画一化された授業は、中学生の発達の段階においては必ずしも魅力的であるとはいえないし、先生方の働きがいや負担軽減にはつながらない。
		②基礎・基本を定着させる。	研究（山上）	【成果指標】 基礎・基本を定着させることで、わかる・できる授業の基盤をつくる。	【生徒アンケート】 ・基礎・基本の定着に取り組んでいる。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【教職員アンケート】 ・基礎・基本が定着するよう、個に応じた指導を工夫している。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生87.9%、教93.1%】 全体的には定着への取り組み度は高めではあるが、①の数値とは多少の差があることが課題である。授業内容は分かるが、定期テストや確認テストで結果が思うように出せない、ケアレスミスが多いなど、授業で理解できたことが十分に定着していないことがうかがえる。各教科において、定着のための演習時間が、教師が考えている現時点での量では足りないことが原因として考えられる。今後は授業におけるタイムマネジメントの見直しや、演習の仕方、定着を図るための方法（家庭学習）などを改善点として取り組んでいきたいと考えている。	B	
		③端末を含めたICT環境を活用し、個に応じた指導を充実させる。	研究（山上）	【満足度指標】 授業のねらいを達成するために、ICT機器を効果的に活用することで、個に応じた指導の充実を図る。	【生徒アンケート】 ・授業のねらいを達成するために、ICT機器を効果的に活用している。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業のねらいを達成するために、生徒がICT機器を効果的に活用できるよう、指導を充実させている。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生92.7%、教75.8%】 昨年度に引き続き多くの先生方がICT機器を授業で取り入れて授業を行ってきた。今年度は「効果的に」ICTを活用することを目標に、GIGA推進委員、ICTサポータとともに取り組んでいる。アンケートの数値から考えると、教師は「効果的な」の部分にあまり自信がないことがうかがえるが、生徒は利活用していることを実感していると分かる。先生方の効果的に使ってみようとする日々の努力が生徒の数値に表れているため、今後はさらに自信をもってこのスタイルを継続し、よりよい活用方法を模索していきたい。	B	
3	徳（明るく素直に振る舞う生徒）	①生徒指導・教育相談を充実する。	生徒指導（泉）	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間の事案件数を減らす。	【生徒指導データ】 ・生徒指導事案（暴力・いじめ等）の発見と解決。 A 100%　B 90%以上 C 80%以上　D 70%以上 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。	【暴力認知件数0件】 【いじめ認知件数3件、うち解消0件　解消確認まで3カ月を要するため】 週1回の管理職と生徒指導担当者間での情報交換と教育相談会を通して、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策などについて、話し合っている。また、chromebookを使っての月1回のいじめアンケート、QU調査後のヘルプシグナルのチェック、個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につなげていきたい。	B	アンテナを高く張って、生徒の小さな変化を見逃さない取り組みは、継続していってほしい。認知件数が多くなったからよくないという捉えではなく、問題が小さいうちに適切な手立てを講じて、いじめを未然に防いでいくことに注力していってほしい。生徒の中には、学校での友達との人間関係以外にも、家庭での困り感を持っている場合もあると考えられる。デジタルのよさを生かし、スクールカウンセラーなどの第三者に煩雑な手続きなしで生徒が相談できるようなしくみがあるとよい。 道徳教育については、引き続き取り組みを継続していってほしい。 キャリア教育については、地域のリソースを効果的に活用することができるよう、CSとしても協力していきたい。根上地区だけではなく、辰口地区、寺井地区の地域人材にも働きかけをすることができるようなしくみを今後、構築していく予定である。
		②特別の教科道徳を大切にする。	教務・研究（今澤）	【努力指標】 特別な教科道徳で学んだことを実生活の場面で活用できるようにする。	【生徒アンケート】 ・道徳の授業で学んだことは、学校や家庭での生活の場面などで生かしていくことができる。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【教職員アンケート】 ・道徳の授業を通じて、豊かな心を育み、実生活の場面で学びを生かすことができるよう、工夫している。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生88.1%、教100.0%】 生徒の授業アンケートで、「道徳の授業で、ほかの人の意見から学ぶことがある。」と答えた生徒の割合が全校で96%と高く、生徒が他者との意見交流を通して考えを深めている様子がわかる。また、「道徳の授業で学習したことが、将来の生活を豊かにしたり、社会に出たときに役立ったりすると思う。」と答えた生徒も94%で、高水準である。生徒が価値項目により迫れる深い学びを実現するために、8月に道徳研修会を実施した。道徳の授業づくりについて職員の共通理解を図り、さらなる授業力向上につなげていく。	B	
		③郷土を愛する心を育成する。	教務・研究（四間丁）	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育を計画的・効果的に実践する。	【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等を活用し、生徒のキャリア発達を促したり、郷土を愛する心を育成したりする。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「根上が好きか？能美市が好きか？」の結果 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	【教100.0%】【生 根上：91.0%、能美：91.4%】 1年生では地域の方から松林や植林について先人の努力を聴いたことで、自分たちの住む場所に対する新しい発見が愛郷心につながったと考えられる。今後、根上五十三次の学習を通して、地元の良さを見つけていくことにつなげていく。また、「能美市がめざすSDGs」について市の出前講座を受け、能美市の人口を増やすために何ができるかを調べ学習し、地域の子育て環境や社会福祉サービスが充実していることを再認識できた。今後、松松レンジャーズを実施できれば、さらに数値が上がると考えられる。	A	
4	体（強い身体をもつ生徒）	①基礎体力を向上させる。	保健体育（辻）	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 ・2、3年生の体力テストにおいて、総合評価のA、Bが占める割合 A 60%以上　B 50%以上 C 40%以上　D 40%未満	【体力テストA、Bが占める割合　48.3%】 各学年別で比較すると、2年男子の38.3%が最も低く、2年女子の59.2%が最も高かった。2、3年生ともに筋力、全身持久力向上が課題であり、その課題を生徒と共有し、体育の授業の中で、筋力トレーニングや持久走に取り組んでいく。	C	各種検診の受診率の評価方法については、受診表の提出以外の要素についても加味して検証してみるとよい。また、異常が認められると判断される事項が、小学校または前学年から継続のものであるのか、または、新規のものであるのかによって、医療機関への受診のお知らせのしかたに柔軟性をもたせてもよいと考えられる。
		②健康教育を充実させる。	保健環境（西田充）	【満足度指標】 「早起き」「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や視力検査の結果を含め、生徒が年間を通して自分の健康について考えられるようにする。	【生徒アンケート】 ・「早起きができている」「朝ごはんを食べている」ができている。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【保健調査】 ・歯科検診、視力検査の受診状況 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	【生 早起き：77.3%、朝食：93.4%】 「早寝早起き朝ごはん」の大切さを伝え、今後もより生徒に意識してもらえるように工夫していく。 【保健調査：歯科検診　18.6%　視力検査　28.3%】 夏休みの個人懇談で、担任から保護者に直接受診票を渡し、受診を促した。夏休み過ぎには、結果がもう少し上がると思われる。 原因は、コロナ禍で病院への受診を控えていること。次は、保護者がいろんな理由で病院での受診をしなくてよいと判断することが考えられる。今後とも、生徒や保護者に粘り強く訴えていくことで、治療率の改善に取り組む。	B	
5	家庭・地域との連携（コミュニティースクールの推進）	①学校運営協議会を充実させる。	教務（斉田）	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニティスクール（CS）としての機能を推進し、家庭・地域との連携を強化する。	【保護者アンケート】 ・コミュニティースクール（CS）をもとに、学校・保護者・地域がつながり合い、生徒の成長を支えることができていると思う。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【教職員アンケート】 ・学校運営協議会での話し合いを中心に、保護者や地域からいただいた意見を、日々の教育活動に生かしている。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	【保43.9%、教93.1%】 今年度より、アンケートの文言をより具体的なものに変更した。保護者アンケート、教職員アンケートともに、昨年度よりも数値が向上していることから、昨年度から行っている、ホームページの充実や教職員間での学校運営協議会に関する情報共有が効果的にはたらいていると考えられる。今年度一年をかけて、学校運営協議会「サポーター名簿」を作成する作業を通じて、学校としてのニーズを明確にする。働き方改革の推進や生徒と向き合う時間の確保のために、学校運営協議会を通じて、より具体的なサポートを地域に依頼することができるよう、引き続き体制の整備を行っていく。	C	ホームページを定期的に閲覧する習慣をつけてもらうことはハードルが高いと考えられる。校長コラムの更新がコドモンを通じて、定期的に保護者に伝わるようなしくみを構築できると、ホームページの閲覧数の増加につながると考えられる。地域サポーターは根上地区（浜小、福岡小、根上中）で一括して登録できるようなシステムがあると、様々な学校のニーズに即座に応えることができる。 今年度一年かけて「サポーター名簿」を作成し、学校としてのニーズを洗い出し、来年度の体制づくりを進めていく。 また、CSとPTAのつながりを強化していくことで、より充実したサポートを行うことができると考えられる。
		②適切な情報公開と社会貢献を展開する。	教務（斉田）	【成果指標】 ホームページ等での情報発信につとめ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を深められるようにする。 【努力指標】 学校教育活動全体を通して、「働く子」を育成する。	【保護者アンケート】 ・生徒の学校での活動の様子を知るために、学校ホームページを定期的に閲覧している。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「そうじをしている」「あいさつができる」の結果。 A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	【生 掃除：94.6%、あいさつ：87.7%】【保33.2%】 「働く子」という視点では、昨年度と比較すると、安定して高い満足度を得られていることがわかる。生徒会執行部や各部会を中心として、さらに質的に向上させていくことができるよう、取り組みを継続していく。 情報発信については、アンケートの文言を精査したことで、より実態を正確に把握することができるようになった。HP内に「校長コラム」を新設し、学校内での出来事を時間を空けずに発信している。この取り組みをさらに充実させていき、学校・保護者・地域のつながりを深める一助としていきたい。	C	